

墨田区勢概要

2024

墨田区









墨田区シティプロモーションブランドメッセージ



ひと、つながる。
墨田区

*シティプロモーションは、区の魅力を内外に広く発信することで、地域を持続的に発展させていく取組です。

*ロゴマークの藍色は、区ゆかりの絵師、葛飾北斎が描いた作品から採用したものです。

いつでも、誰とでも、簡単につながる時代。
離れていてもコミュニケーションがとれる世の中だからこそ、
近くで、共に過ごす時間を大事にしたい。

墨田区では、花火大会や大相撲、墨堤の桜、伝統工芸など、
多くの文化が人々の想いによって、受け継がれてきました。

江戸時代、現在の墨田区に生まれ、世界にも影響を与えた絵師、葛飾北斎。
真の絵師になることを目指し、挑戦し、成長し続けた北斎は、
生涯のほとんどの時間をこの地で過ごしました。

北斎が現代まで語り継がれているのも、絵師としての才能だけでなく、
北斎を受け入れた風土や文化、そして多くの人のつながりがこの地にあったからといえます。

このロゴマークの「人」は、その北斎の画号をデザインし、
イメージカラーには、北斎が時流を捉えながら作品に使っていた、独特の藍色を採り入れました。
「人 つながる 墨田区」というメッセージには、
ここに暮らす、働く、訪れる、すべての人につながるの温かさを魅力に感じてもらい、
それを地域のカへと変えていきたいという想いが込められています。

墨田区は「人と人とのつながり」を大切にしながら、未来への道を歩んでいきます。

平成28年4月

墨田区平和福祉都市づくり宣言

わたくしたちは、平和のうちに幸福な生活を営めるよう、これまで、たゆみない努力を積み重ねてきました。

平和を守り、より良い生活と文化を築いていくことは、わたくしたち共通の願いです。

「平成元年」という新しい時代の始まりにあたって、わたくしたち墨田区民は、心新たに、世界の平和とひとびとの福祉向上の実現に、一層努力することを誓い、ここに平和福祉都市づくりを宣言します。

平成元年1月11日

墨田区

緑化宣言

——墨田区に緑を——

わたくしたち墨田区民は、明るく住みよい町づくりを心がけています。しかし、わたくしたちのまわりからは、しだいに大切な緑が失われ、うるおいのない毎日になりつつあります。

わたくしたちは、いまこそ一致協力して、墨田区に失われた緑をとりもどし、ふやしていかなくてはなりません。そして、ゆたかな生活環境をつくりだすこと——これがわたくしたち墨田区民の願いです。

このために、わたくしたちは、次のことを誓います。

1. 緑を愛し、だれもが緑化につとめます。
2. 樹木や草花を大切にし、できるかぎりふやすようつとめます。
3. 公共の場所は、特に緑化するようつとめます。
4. 緑のある空地进行を多くし、不時の災害に備えるようつとめます。

(昭和47年3月)

すみだ健康区宣言

わたくしたちは、だれもが、生涯にわたって心身の健康を保ち、いきいきと働き、学び楽しく集い、憩える、明るい家庭と活気あるまちの実現を願っています。

健康こそは、個人や家庭にとって幸せの源であり、社会を発展させる原動力です。

いま、21世紀に向けて、わたくしたちは、区民すべての健康づくりを推し進め、「人と緑と産業の調和した安全、快適、豊かなまち墨田区」をめざし、次のことを誓います。

1. わたくしたちは、健康な生活習慣を身につけ、自分の健康は、自分で守り、自分でつくります。
2. わたくしたちは、病気予防や早期発見、早期回復に努め、健やかな生涯を築きます。
3. わたくしたちは、体力づくりに励み、レクリエーション、文化活動に親しみ、豊かな活力を養います。
4. わたくしたちは、ふるさと墨田の自然と風土を守り育て、まちを美しく清潔にし、住みよい環境をつくります。
5. わたくしたちは、家庭の団らんや近隣との交流を大切にし、思いやりと心のふれ合いのあるまちを、未来に引き継ぎます。

(昭和59年10月)

健康づくりシンボルマーク



だ円形は、広がり、動きなどを表わし、四角形は、安定、落ちつきを意味します。

全体として、心と体の調和、健康がもたらす『幸せ』を表現しています。色調は、だ円形が健康な肌色、四角形が自然の緑色、重なり合った部分は、健康の透明度を表わす白色です。

「すみだ やさしいまち宣言」

— 人と地域と環境のために —

わたくしたち墨田区民は、21世紀という新しい時代を迎えるにあたり、「やさしさ」や「おもいやり」の心を大切にして、人と地域と環境に対してやさしいまちをつくり、未来の世代に引き継いでいくために、次のとおり行動します。

- 1 人と人とのふれあいを大切にして、お互いに支え合う「人にやさしいまち」の実現に努めます。
- 2 まちをきれいにし、他人への迷惑行為や犯罪をなくし、すべての人が安心して暮らせる「地域にやさしいまち」の実現に努めます。
- 3 環境に配慮し、限りある資源を大切にする「環境にやさしいまち」の実現に努めます。

(平成12年7月)

すみだ環境区宣言

— かけがえのない地球を未来の子どもたちへ —

私たちの住む地球は、多様な生命の営みにより生まれ、
多くの人々の英知と努力により守られてきました。
この地球を、美しいままに未来の子どもたちへ引き継ぐことは、
今を生きる私たちの責務です。

私たちの暮らす墨田区は、
悠久の流れをたたえた隅田川と先人の力によって生まれた荒川の
二つの河川に抱かれた豊かな水辺の地にあります。
この地の自然をはじめとして、
江戸下町文化を育んできた環境を守り、
より豊かにして引き継ぐことは、
墨田区に住み、働き、学び、集う私たちの願いです。

私たちは、自然の恵みに感謝するとともに、
国内外の人々との交流を深め、共に手を携えて、
この愛する墨田区を「環境にやさしいまち すみだ」として
未来の子どもたちへ引き継ぐため、
次のとおり行動することを宣言します。

- 1 地球温暖化を防ぐクリーンなエネルギーを導入し、
低炭素型のまちをつくります。
- 2 水辺と緑を守り増やし、自然と共生するまちをつくります。
- 3 ごみを減らし、資源を大切にすまちをつくります。
- 4 雨をたくわえ、水の恵みを活かしたまちをつくります。
- 5 生活環境を守り、安全で安らぎのあるまちをつくります。
- 6 環境について学び、行動し、発信するまちをつくります。

平成21年10月1日



墨田区環境キャラクター
「地球くん」

すみだゼロカーボンシティ2050宣言 ～脱炭素社会の実現を目指して～

墨田区は、かけがえのない地球を未来の子どもたちに引き継ぐため、「環境にやさしいまち すみだ」の実現に向けた取組を積極的に推進しています。

しかし、近年、世界各地及び日本において、極端な気象現象による自然災害が発生し、私たちの生命や財産を脅かすとともに、区民生活にも大きな影響をもたらしています。

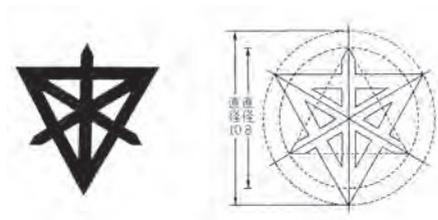
2018年に公表された国連のIPCC（気候変動に関する政府間パネル）の報告書では、2050年前後には世界の二酸化炭素排出量を正味ゼロにする必要があることが示されました。また、2015年に国連で採択されたSDGsでは、地球上の「誰一人取り残さない」ことを理念とする、持続可能な社会の実現を掲げています。

我が国においては、2020年に「2050年カーボンニュートラル」が宣言され、東京都においても、2019年に同様の宣言が行われています。

これらを踏まえ、墨田区においては、地球温暖化を防ぐための行動を加速していくため、2050年二酸化炭素排出実質ゼロの実現を目指す「すみだゼロカーボンシティ2050」を宣言し、区民・事業者・区が協働することにより、脱炭素社会の実現に向けたまちづくりを推進していきます。

2021（令和3）年10月5日

○墨田区の紋章



※線帯の幅は外円直径の $\frac{8}{100}$ とする。

墨田区発足10周年を記念して、昭和32年5月15日墨田区告示第34号で区の紋章が制定された。

この紋章は、区民の一般公募からの当選作で、「ス」の字の組み合わせで発展する区の姿を象徴したものである。

○区の木 さくら



○区の花 つつじ



区民に愛され、親しまれ、また、緑化のシンボルとなるよう、区政30周年を機会に選定した。

墨田区名誉区民

名誉区民は、公共の福祉を増進し、又は学術・技芸等の進展に寄与した方であって、その功績が卓絶し、広く区民の尊敬を受けるとともに、墨田区の名を高めていただいた方です。

こうした方の事績をたたえとともに、区民の敬愛の対象として永く顕彰するものです。

区では、墨田区名誉区民として、平成22年に王貞治氏と西山幸一郎氏を顕彰しました。また、令和6年9月に墨田区議会の同意を得て、五街道雲助氏を顕彰することを決定いたしました。



王 貞治 氏

王 貞治氏は、墨田区に生まれ育ち、昭和34年には巨人軍に入団しました。これまでに、本塁打の世界記録の更新や監督として第一回ワールド・ベースボール・クラシックで日本代表を優勝に導くとともに、少年野球を通じた諸外国との友好親善や青少年の健全育成にも尽力されています。

そして、昭和52年に国民栄誉賞を受賞され、平成21年には、名誉都民として顕彰されました。また、王 貞治氏の功績は区内小学校5年生の副読本「ふるさとすみだ」で、紹介しているのははじめ、毎年開催されている「王貞治杯少年野球大会」等ゆかりの行事も多くあります。



故 西山 幸一郎氏

西山 幸一郎氏は、昭和12年以来、70年余の長きにわたり、押絵羽子板造りに精進してこられました。丹精込めて制作された羽子板は、広く区民の方々から敬愛されているほか、国内外での展示会への出品や各国の要人に寄贈されるなど、その活動を通し広く墨田区の名を高めてこられました。

平成元年には、御自宅に羽子板資料館を開設するなど、伝統工芸の保存と継承に向けて尽力され、同2年には、すみだマイスターに認定、18年に東京都名誉都民として顕彰されました。

氏は、平成26年11月3日にご逝去されました。



五街道 雲助氏

五街道 雲助氏（本名：若林 恒夫氏）は、墨田区生まれの落語家であり、独自の芸を創り上げ、東京の落語界を牽引する本格派の演者の一人として活躍されています。昭和47年に、前座名「金原亭駒七」から「五街道雲助」に改名され、昭和56年に真打に昇進されました。

江戸の古典落語を高度に体現し、長年の研鑽に基づく卓越した技量を数多くの高座で示すとともに、落語界の第一人者として後進の指導・育成にも尽力されております。

そして、平成28年に紫綬褒章を受章され、令和5年10月には、国の重要無形文化財保持者いわゆる「人間国宝」に認定されました。

ま え が き

- ◇ この区勢概要は、墨田区の概要を一般に紹介する目的で発行するものです。内容としては、区の行財政、教育、産業経済、福祉などの事務事業に関する概況と成果を中心とし、さらに区民生活に関係の深い上・下水道、警察、消防、交通機関などについても広く収録しました。
- ◇ 掲載資料は、令和6年3月31日を基準としましたが、できるかぎり最新のものを取り入れるよう努めました。
- ◇ 編集にあたって、関係官公署、各企業ならびに諸団体からご協力いただいたことを深く感謝いたします。
- ◇ この区勢概要が区政に対するご理解を深める一助になれば幸いです。

令和6年10月

墨田区企画経営室 広報広聴担当

